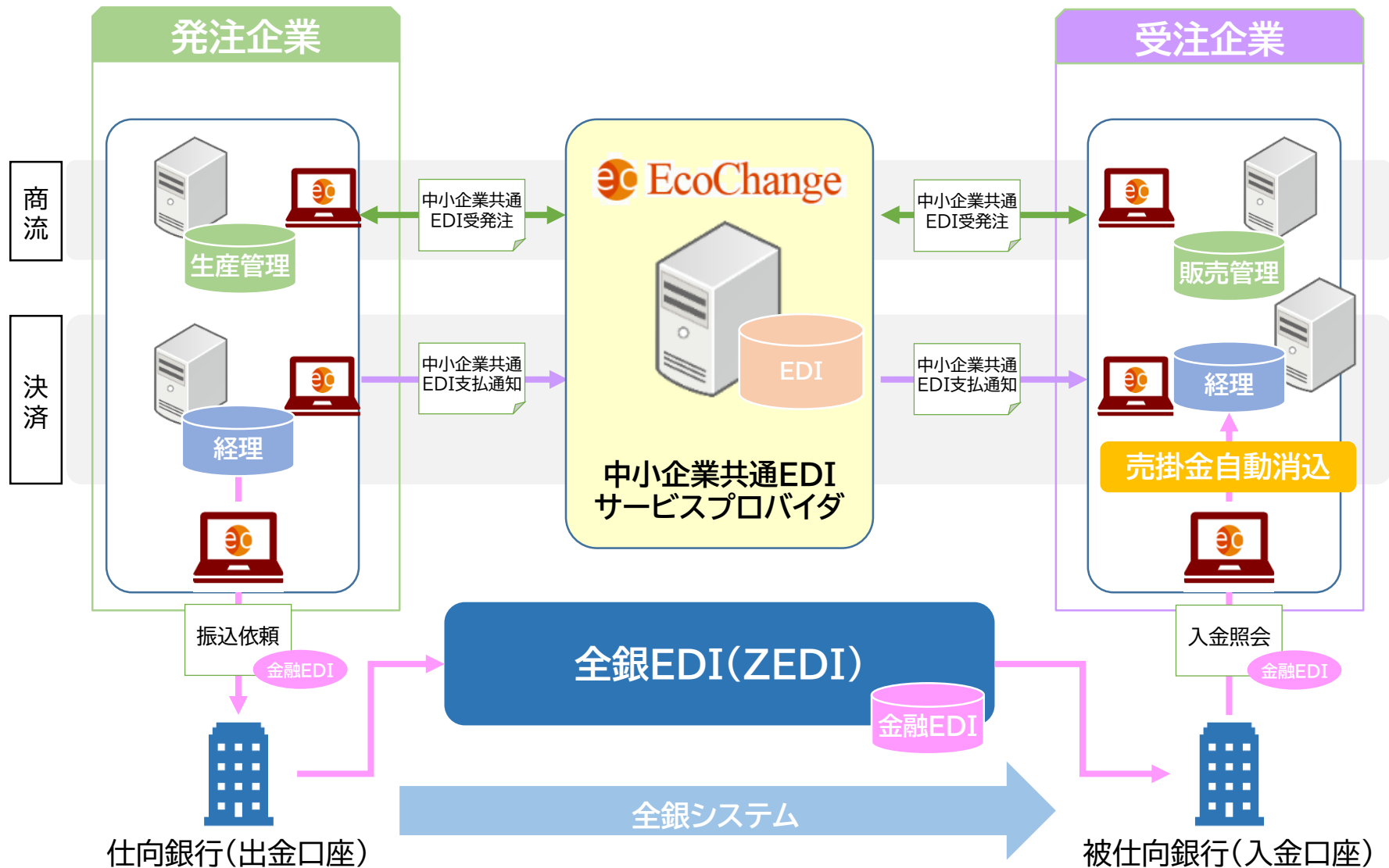


商流（受発注）はつながっても金流（決済）まで情報はつながっていない、
電子入力の最終アウトプットは決済。

ZEDIを活用して金融EDIを実現し、 決済まで一気通貫に情報連携

デジタル化によるビジネスの変革を行うには、
まず注文書を電子化しましょう！

ZEDIによる金融EDI 商流情報と決済情報の連携



今回の取組み概要

<金融EDIシステムの概要>

中小企業共通 EDI に準拠した受発注・請求ソフトである「EcoChange」を利用して、受発注企業の間における受発注情報から仕入明細（検収情報）、振込・入金情報までをデジタルデータ化し、EDI の仕組みで一気通貫に情報連携する。

<業務合理化・効率化の概要>

- ① 検収データから振込依頼を簡単に作成できること。
- ② 検収データを支払内訳として振込情報に添付できること。
- ③ 振込情報に添付された支払内訳により、入金消込作業を自動化できること。

導入スケジュール・進捗状況について

基幹システム更改等と重なり、受発注EDIの導入に遅れ。

2021年度

2022年度

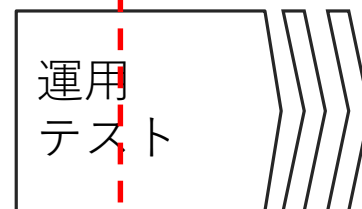
受発注EDI



試験環境ご提供



受発注EDI操作説明会



EDI稼働判定

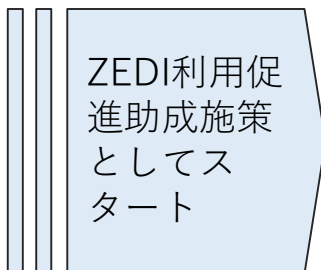


金融EDI

金融EDI稼働



全銀ネット報告



現状の課題感について

	課題	解決策
普及促進	<ul style="list-style-type: none">銀行の支店営業マンにもZEDIが認知されていない。面的に広がらないと、単に個社別の仕組みとなってしまう、かえって手間が増える。	<ul style="list-style-type: none">全銀協、金融機関による普及促進人材の育成強化。ITコーディネーター（EDI推進サポーター）の活用。つなぐITコンソはじめてとする業界の普及団体と連携。
電子インボイスの標準化	<ul style="list-style-type: none">会計アプリ、決済アプリごとに電子インボイスのデータフォーマットが統一されていない。	<ul style="list-style-type: none">Peppol（JP-TINT）、中小企業共通EDI等の汎用性の高い標準フォーマットの採用。
業務効率化	<ul style="list-style-type: none">請求書と仕入明細書の突合だけでは業務効率化のメリットが小さい。	<ul style="list-style-type: none">受発注から出荷・検収、請求まで一気通貫にデータが流れる仕組みを構築。

ここが始まりでここから始めないといけません！

EDIはDXのはじめの一步

デジタル化によるビジネスの変革を行うには、
まず注文書を電子化しましょう！